

小学校の川や防災に関する学習を支援します

松本砂防工事事務所

フィールドワークの大切さ 子供たちに伝えたい

長野県北安曇郡
小谷村立南小谷小学校
校長 清水岩夫さん

「勉強というのは、教室や机の上だけでするものではありません。先生と児童と一緒にフィールドに出かけ、目で、肌で、感じる事が大切です。何かを学ぶときには多少の困難や苦勞が伴いますが、それを乗り越え、自分の力で知識を獲得できたとき、子供たちは本当のやり甲斐や楽しさを感じるのです」

南小谷小学校の校長、清水先生は、好奇心旺盛な少年のように、キラキラと輝く目で語ります。

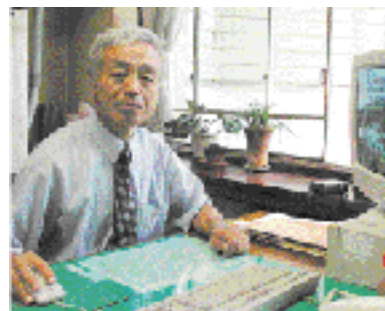
清水先生が小谷村と出会ったのは、大学4年のとき。地質学を専攻していた先生が研究テーマのひとつに選んだのが小谷村でした。稗田山や土倉などで大規模な崩壊が相次ぐ小谷では、当時、折しも南小谷の小土山で大きな地すべりが発生したばかりでした。

校長に就任後も、過去の文献や最新データをあたり、

山や村のあちこちを歩いて、大規模崩壊の発生原因や法則性などについて地道に調査・研究を続けています。

山登りが好きで、児童や先生方としょっちゅうフィールドワークに出かける清水先生。防災イベントや見学会に参加するなど、防災教育にも力を入れています。

「防災教育というのは、地域理解を深めること。地域を知ることが“生きる力”にもつながるのです。インタープリメントをはじめ、さまざまなイベントに参加して、将来に活かせる体験を積み重ねていきたいですね」。



自然と調和した 砂防施設

自然豊かな場所に設置されることが多い砂防施設は、土砂災害を防ぐという大切な役割と同時に自然景観との調和や自然との共生も必要です。見学場所として適した、自然景観に溶け込んだ美しい砂防施設を紹介します。

登録有形文化財「上高地・釜ヶ淵えん堤」

今年5月、上高地にある「釜ヶ淵えん堤」の、国の登録有形文化財への登録が答申されました。日本で最初のアーチ式砂防えん堤です。昭和17年に完成し、60年以上にわたって梓川で土砂災害を防いできました。えん堤は高さ29m、長さ79mです。「えん堤の上から落ちる水が天然の滝のようにも見え、表面に見える石積みのパターンやアーチ式の形状も周囲の景観と調和」していることと、「日本での初期のアーチ式えん堤で、形態や構造、作る技術がその後のえん堤の手本になった」ことなどが登録推薦の理由でした。上高地で一度は見てみたい施設です。



牛伏川・フランス式階段工

松本市郊外にある大正期に作られた19段の階段状の施設。護岸と河床に敷き詰めた割石が周囲の深い緑に映える美しい施設です。



平川・源太郎砂防えん堤

白馬村にある砂防えん堤で、唐松岳、五龍岳などからの土砂流出を防いできました。北アルプスを背景に幾段もの美しい落水を見せています。



発行

国土交通省
松本砂防工事事務所

〒390-0803 長野県松本市元町1-8-28
TEL.0263-33-1115 FAX.0263-33-6086
メールアドレス matumoto@hrr.mlit.go.jp

お問い合わせは
FAXかE-mailで
お願いします。